

恵仁会 通信（戮力共心） vol.22

発行所：医療法人社団 恵仁会 きらら歯科クリニック

〒901-0244 沖縄県豊見城市宜保 370

TEL098-840-5557 FAX098-840-5558

発行日 2010年11月1日



南国沖縄も最近やっと涼しくなり、過ごしやすくなってきました。今回は発育期の児童の歯牙破折時の対応についてお話ししたいと思います。

学校での転倒、事故等により前歯が欠けたり、位置が歪んでしまったり、抜けたりして受診される患者さんが多いのが特徴です。もしそのような事が起こってしまったときに真っ先にして頂きたいのが、

- ① できるだけ早く落ちてしまった（欠けた）歯を見つけ
- ② 牛乳に保存し
- ③ 歯科医院にかかって欲しい

ということです。

歯の根の周りには歯根膜といって骨と歯をつなげる役目をする細胞組織があり、外傷後 1 時間以上乾燥状態にあると死んでしまうと考えられています。

そのため治療の可否が上記処置の有無で決まると言っても過言ではありません。

ここでおおまかに破折の度合いに応じた治療方法を説明します。

① 歯の 1 部が欠けて歯髄（神経）まで到達していない場合。

破片があれば接着剤で着けますが、白い人工の樹脂を欠損部につめる事もあります。

② 歯が欠け、歯髄に到達している場合（赤く歯髄が見えています）

歯髄の露出が小さい場合は薬剤を置いて破折片を接着、または樹脂をつめます。

歯髄の露出が大きい場合は歯の上の歯髄のみ除去した後、破折片を接着、または樹脂をつめます。場合によっては差し歯を入れる事もありますが、成人してから根の治療も含め再治療が必要な場合もあります。

③ 根の途中から折れている場合（ヒビのみも含む）

ヒビのみであれば隣の歯と 1~2 カ月間固定して経過観察を行う場合や、先の折れた部分のみ除去した後、上の歯を再移植する事もあります。

④ 歯が抜けてしまった場合

再移植し 1~2 ヶ月隣の歯と固定します。その後根の治療が必要な場合もあります。

どの場合も治療後定期的に経過観察を行う必要があります。

また、前歯で硬い物を咬まない様にする等、日常生活での注意も必要です。

外傷歯の治療の可否が患者さんサイドの知識や処置で決まる事があるため、児童、保護者、教育者への外傷に関する啓発活動が重要だと思われます。